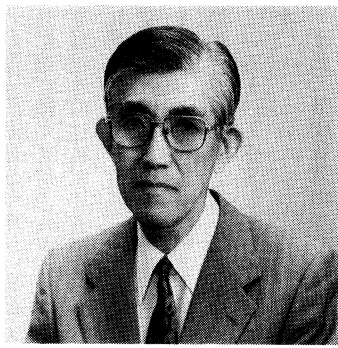


立命電友会

「二十一世紀に向かって飛躍を続ける
立命電友会の発展を祝福して」

〔元関西電力㈱・元関西計器工業㈱〕

應地 芳蔵（昭和三十一年院修了）



このたび立命電友会の会報に、執筆を依頼されましたが、記載できるような内容も経験も、全く持ち合わせていないので、その任に非ずと思いましたが、身の竦む思いで筆を執ることに致しました。大学院卒業後四〇年程経過していることですので、私の過去の感想

等がどうしても主体になるのではないかと、危惧の念を抱いております。どうか、ご容赦下さるようお願いいたします。

先輩諸氏のかたがたが、念頭の立命電友会の創立にご尽力を尽くされ、その後、年を重ねる毎に着々と充実し、ご発展の一途を辿っていることは全会員の皆様方と共に大変喜ばしいことと存じます。

また、昨年三月二十六日には、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学記念式典が、盛大に挙行されました。二十一世紀に向かって大きく羽搏き、これまでに蓄積された、素晴らしい技術力を通じて、国の発展に貢献していくものと確信しているものであります。

また今年は、早々に阪神淡路の大地震が「寝耳に水」の譬のように発生し、会員の皆様方の中にも被災なされたかたがたが、おられるように拝しております。これらの皆様には、なんとお慰め申し上げてよいのか言葉もありません。月日のみは無情にも、はや、半年余が経過しようとしておりますが全く微力の自分を嘆くのみです。どうか一日も早く、虚脱感から立ち直られて頑張られるよう祈るのみです。この紙面をお借りしてお見舞い申し上げたいと存じます。

また、これらの災害に追い討ちをかけるように、円高ドル安を始とし色々な事件も発生し、世情不安の様相に一役買っているようですが、立命館学園の使命は、誠に重且つ大と申しても過言ではないと思います。

私は、昭和二十五年に電気工学科に編入学させていただき、その後、昭和二十七年に新しく設立されました大学院の理工学研究科電気工学専攻に、第一回の新入学生として同輩四名と共に入学し、その後二名は中途退学して三名のみの院生で勉学に励みました。恩師の羽村二喜男先生には、以来修了までずっととお世話になりました。一番「厄介をおかけした中の一人ではなかったかと、慚愧の念に堪えない気持ちで一杯です。等持院

での思い出は交通不便をはじめとし、木造の校舎、実験設備等も戦後のことですので今からみれば想像もつかないような状況の中での勉学は、つらくもありましたが今となりましては、すべてが懐かしく感ずることばかりです。

真空管式のバカでっかいテレビが、巾を利かせていた時代です。で、研究課題と云っても私達の頭の中では、その当時まだテレビとかが、コンピュータとかが研究の対象になりそうな気がしてましたので、羽村先生にそのことを申し上げましたら立ち処に、「テレビはもう古いよ、コンピュータは対象になるが君達の手に負えるかな、アメリカでは水晶時計に取り組んでいるようだ。」と仰られたことなどが記憶に残っています。現在から考えれば全く隔世の感があります。

私の研究課題は、マックスウェルの電磁方程式でした。上林先生のご担当で取り組んだのは良いのですが、とても難物で私の手に負えるような代物ではないようでしたが、上林先生の懇切丁寧なご指導を賜り数々の勉強をさせて頂きました。結果は不合格になり、その当時はもう勉学を続ける気も無くなって、これが自分の辿るべき運命なのだと思います。等持院でしたが、二年目に羽村先生よ

りお呼びがかかり、「君自身で研究テーマを選択してもらう一度論文を提出しては」と云われました。

当時、私は関西電力の大阪で電力用通信の業務に従事していましたので、それではと思い、電力用無線通信の分野の中からテーマを選び、不勉強の頭に鞭を打ってやっ

と提出させて頂きました。昭和三十一年七月に当時の、末川総長先生より広小路の校舎にて修了証書を授与されまして、今日、院生の卒業生の一端を汚している次第です。今となつては、他の人の倍以上の勉学が出来たことと反って感謝の気持ちで一杯です。

大学院も昭和二十九年に第一回の修了生を送り出して以来、本年で四十年余になりました。毎年平均八人前後の卒業生を送り出すと計算すれば、（これは私の推量ですが）約三二〇人以上になります。

最近では、電気工学系のみならず、電子工学系、情報工学系等も含まれていますので修了生は飛躍的に増加しているものと思います。これらの修了課程、博士課程の優秀な修了生のかたがたが、次々と社会に進出し、活躍されていることを思います。立命館学園の名声を一層高らしめていると思います。先輩としましては、これ以上の喜びは無いものと思っています。技術革新のスローガンのもとで、

この四十年余は世の中、一世紀も先に飛び越えて行ったような印象を受けるのは私だけではないように思えてなりません。院生の会の発展には優秀な若手の先生方がスタッフで頑張っておられますので、私のような老骨でもなんとか動まれているものと感謝している次第です。

また、健康管理については、私なりに充分気を付けていたつもりだったのですが、昨年の今頃脳梗塞を患い二ヶ月余入院いたしました。会員の皆様方の中にも私と同じ様な年配のかたがたもおられることと思いますので、ご健康にはくれぐれもご注意くださいよう願います。

末筆になりましたが、これから先、優秀なる後輩諸氏のかたがたが続々とふえてきておりますので、立命電友会の一層のご活躍、ご発展を確信し、併せて会員の皆様方のご多幸を祈ります。

以上



新任のご挨拶

浮田宏生

琵琶湖を望む高台にギリシャ風アカデミアの趣を漂わせた端正な学舎があります。しかも、この一連の学舎内部には高度の情報インフラが整備されています。私はこのような地で若い学生諸君とともに学び、ともに研究することができると喜びを噛みしめています。そして「立命」の建学理念に共感できることが、私にとってさらなる喜びです。

私は一九四五年八月二八日、松山市に生まれました。高校卒業まで地元で過ごしたので、関西弁が抜けません。こちらへ赴任し、久しぶりに柔らかな言葉に接し、気持ちになごむ今日この頃です。一九七三年には東北大学工学研究科博士課程を修了、NTTでの二二年間の研究生活を経て、一九九五年四月より本学へ参りました。趣味は絵画やテニスで散策なども好きです。

東北大学工学研究科では恩師の岩崎俊一先生から、「ほんとうに必要な技術の中にこそ、基礎研究の種があるものです。それを自分で見つけなければなりません。他人の真似をしないで下さい。」と

言われながら、研究者として成長させてもらいました。今度は立場がかわって教える側になりましたが、ともに学びたい気持ちに変わりはありません。そして、私もこの実学の精神を重視していきたいと思っています。学生と先生、お互い修養の身にあって、人の「心意気に感じる」気持ちを大切にしていきたいと考えています。人間というものは、最後は「心意気に感じて」動くものだと思います。

本学も来年には光工学科が新設されようとしています。新光工学科では伝統的な光学の知識だけではなく十分だと思っています。関連する機械工学や電子工学を統合して自己の技術としてしまうような能力が求められると思います。複雑化する現代社会、多様化する技術要求に対処するため、学際領域の技術——オプトメカトロニクス——が必要とされるからです。例えば、来るべきマルチメディア時代には、情報の入出力、伝達、記憶などにオプトメカトロニクスの立場からの取り組みが必要になると予想されます。

私はこれまで光ディスクメモリ、マイクロマシンングによる光と機

械の集積、光の圧力を利用した微小物体の回転駆動制御などの研究を行ってきました。また、学会活動にも積極的に参加してきました。そこでは大学や企業の研究者と生の情報を交換するとともに、各種国際会議の委員や幹事、論文査読委員や編集委員を努めています。今後はこのような経験をすべて学生さんの前に投げ出しますので、お役に立つものがあれば、それを吸収してほしいと思います。

ここ近江の地は逢海あるいは淡海とも書くそうで、古代より人々の交流の場であったと聞いています。西からやってきた人々も、東からやってきた人々も山を越え、眼下に広がる淡水の海を見て感動したそうです。私も赴任早々、湖岸道路から奥比叡をドライブし、山の上から湖国を眺めたとき、このことをよく理解できました。縄文や弥生時代から人々の集落があったのもうなずけます。遺跡も多いと聞いています。また、京都、奈良はシルクロードの終着地であり、東アジア文明の拠点であり続けました。このような土地と人々に囲まれて、私は第二の人生を送れるのですから、精一杯皆さまのお役にたてるよう努力していく所存です。どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

篠田博之

篠田博之と申します。この春、京都大学の建築学専攻博士課程を修了し、電気電子工学科の講師として着任いたしました。専門は人間の視覚情報処理、色彩工学、光・色彩環境工学で、人間の視覚に関する研究をしています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さっそくですが、私の専門の視覚研究について説明させていただきます。視覚系とは受光器である眼から最終的に知覚を形成する脳までを指しています。視覚系は物理学、医学、生理学、心理学と実に様々な角度から研究されていますが、我々の場合は、色、明るさ、奥行き、動き、形などの知覚メカニズムを心理物理学的手法を用いて探求しています。生きて機能している人間の視覚系を相手にするわけですから、身体の内蔵を開いたり、触れることはできません。そこで、光（物理）と感覚（心理）との対応を調べ、内部で行われている情報処理過程、さらには特定のニューロンの特性をも明らかにしようとする心理物理学のアプローチが必要になるのです。

例えば、次のようにして視覚系のメカニズムを探っていきます。どの位の光の強度があれば見えるのかという、最も基本的な「光覚

「閾」の測定では、被験者にある強度の光を呈示し、「見えた」か「見えない」かを応答させます。

これを光の強度を様々に変えて繰り返し行い、横軸を光の強度、縦軸を「見えた」と答えた回数(確率)にとると、きれいなS型の関数が得られます。そして見えた確率が50%となる強度を以て、光覚閾値と決定します。さらにこの光覚閾を、暗順応過程(明るいところから急に暗いところへ移ったとき、初めは何も見えませんが徐々に辺りが見えるようになる過程)で測定するとうなるか。これはもう膨大な時間と労力を有する実験です。今度は横軸を暗順応開始からの経過時間、縦軸を閾値にとると、時間の経過につれて閾値はどんどん低下(感度は上昇)して行きます。ところが、あるところ

(立命館大)と、幸か不幸か専攻・所属を転々と変えてきました。その経験より、研究対象は人間の視覚系であっても、そのときの所属に応じて必要とされている成果を提供できる研究者でありたいと思うようになりました。今日、私たちの身の回りは実に多機能・高性能の製品で溢れています。しかし、なかにはテクノロジーの押しつけのような製品も少なくありません。今求められているのは、素晴らし

いテクノロジーを人間にとって最適な形で提供することだと思えます。人間の側に立って、道具や製品や環境をデザイン、設計(ソフトも含めて)することだと思えます。そのために少しでも我々の研究が役立つよう、努力して行きたいと思っています。

話は変わりますが、今日日本中を騒がしている、ある新宗教のメンバーの中にはかなり優秀な研究者もいると聞いています。「大学でいくら高等な知識を与えても、人格面でのきちんとした教育がなされなければ、悪魔を製造しているに等しい」と言ったある先生の言葉が思い出されます。最後になりましたが、私も教育者の端くれとして、知的・人格的に優れた立命館の学生を育てるため、微力を尽くしたいと思っています。どうぞ

修士課程は物理情報工学(東京工大)、博士課程は建築学(京大)、そしてこの度は電気電子工学科

指導御鞭撻をよろしくお願いいたします。

山田廣成

昨年新任のご挨拶をいたします。ところ、事務局の特別のお計らいにより、一年猶予を頂きました。この四月の末にBKキャンパスに腰を落着けたのですが、それまでは東京の田無を本拠地にして「オーロラ」移転の準備に当たっていました。

この「オーロラ」と申しますのは、立命館大学が歴史的事業として二一世紀の研究教育の牽引車として導入を決定したシンクロトロン放射光装置(SR装置)の名称です。超伝導の電子蓄積リングとマイクロトロンという加速器から

なります。SR装置は、高エネルギー物理研究所や岡崎分子研究所のような大規模国立研究所でしか持ち得なかった大型装置であり、今又西播磨に理化学研究所と原子力研究所が共同で周長13kmという超大型SR装置を建設中です。このような大型装置を一私大が導入に踏み切った背景には、技術革新により岡崎分子研の装置以上の高性能のSR装置が直径3mという小型になったことと、遠赤外線からX線までのあらゆる波長領域の高輝度光を一六本のポートから同

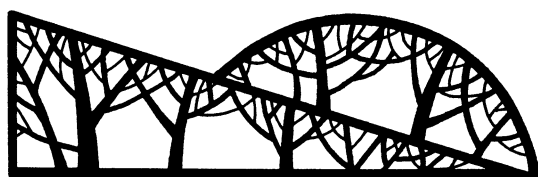
時に取り出すことができるという光源の魅力にあります。まさに光技術の時代と光工学科の発足に当たり、その中心として相応しい施設です。

SR装置は様々な用途に利用されます。X線回折、XAFS、光電子分光、蛍光X線分析、X線顕微鏡といった手法は、従来からありますが、高輝度のX線で従来では観測できなかった微少領域や微量サンプルを迅速に分析する点で質的に異なります。

このような小型SR装置が出現するきっかけは、1GeV以上の超高密度ULSI製造のためのX線露光が必要になったためですが、SR装置はシリコンの微細加工のみならず金属の加工もできることが明らかになっています。

さて、小生はこのSR科学の発展のために立命館大学へ移りました。オーロラは小生と仲間が四年の歳月を掛けて完成しました。小生は約一〇年毎に分野を変えて新しいことに取り組むという幸運に恵まれました。小生の出身は物理で、名古屋大学原子核工学研究科修了後は、米国に渡り、Oak Ridge National Lab.で重イオンを用いた核構造の研究に取り組み、日本に帰り、住友重機で世界で初めて完全円形型、超伝導電子蓄積リングの開発に取り組み幸運に

恵まれ、そして、この間に新しい方式の自由電子レーザーである光蓄積リングの着想をえました。立命館における今後一〇年の計画は光蓄積リングを実証することです。光蓄積リングは、直径わずか1mの常伝導完全円形リングでオーロラ以上に高輝度のハードX線を発生させることができます。光蓄積リングの実現はさらに光の時代を加速すると期待しています。



電子技術研究センターの新体制と活動状況

(前)電子技術研究センター長 三木秀二郎

立命館大学理工学部がびわこ・くさつキャンパスへ移転してからはや一年が経過しました。移転を契機に総合理工学研究機構が設立されました。現在、総合理工学研究機構には電子技術研究センターをはじめ、ロボティクス・FA、高性能・分散コンピュータ、環境総合、材料・生産技術、建設マネジメント、エコ・テクノロジーなど七つの研究センターが属しており、それぞれ研究活動を軌道に乗せつつあります。

電子技術研究センターにおいても、研究施設、組織等について、着々と整備を進めつつあります。電子技術研究センターの専用研究室として、昨年一二月にキャンパスの北東部に建設されました研究センター第一期棟(ロボティクス・FA研究センター棟)の二階に電子技術研究センター室を開設いたしました。

また本センターを運営していく一九九五年度の新しい体制が決まりました。

センター長	辻村 寛
副センター長	杉本 末雄
運営委員	三木秀二郎 岡田 正勝 川畑 隆夫 寺井 秀一 中西 恒彦 溝尻 勲
電子技術研究センターは電気・電子・光の分野において社会的要請の高い先端科学技術に関する自主的研究および産・官・学の共同研究の推進や地域社会、地域産業への貢献を図ることを目的としています。	
電子技術研究センターの研究分野は次のとおりです。	
光・電子デバイス部門	
(1) 電子デバイス(三次元IC、電子波デバイスを含む)	
(2) 光デバイス	
(3) 半導体(超薄膜構造を含む)、誘電体、磁性体、超伝導体	
(4) 回路設計	
画像情報部門	
(1) 画像計測	

- (2) 信号解析、モデリング&シミュレーション
- (3) 画像処理、コンピュータグラフィックス
- (4) 画像デバイス
- 制御変換・エネルギー利用部門
- (1) インバータ・コンバータ
- (2) ドライブシステム
- (3) エネルギーマ変換利用技術(アクティブフィルタ、無効電力制御、可変速度定周波発電機、太陽電池、燃料電池)
- 現在、電子技術研究センターに登録されている研究者は電気電子工学科、情報学科の専任教員を中心に客員教授を加え総勢一九名です。また本学大学院在籍者が、研究活動を補助する研究補助員として適宜参加します。学外の機関に属する人で本研究センターで研究する方はセンター客員研究員として、また研究活動の訓練を受ける方は委託研究員として受け入れられます。
- 研究センターでは寄付研究、受託研究、共同研究、技術指導、情報提供、研究設備および施設の開放などを行います。
- 現在、一件の寄付研究が実施されています。更に、五件の共同研究が実施に向けて準備中です。第一期研究センター棟に隣接して、第二期研究センター棟の建設

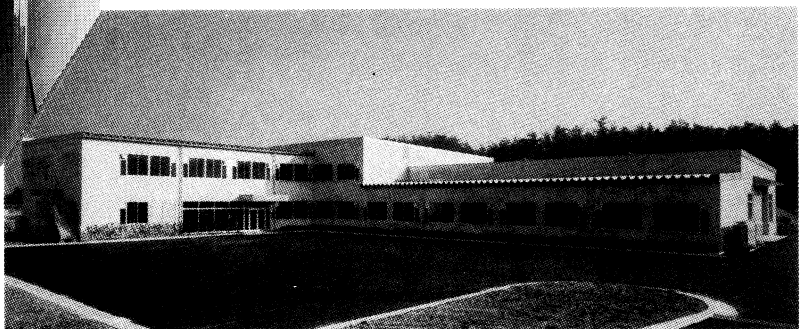
も関係各位のご努力により、今年度中に建設着工の見通しが得られそうな状況です。その中に電子技術研究センターの専用面積として約二〇〇〇平方メートルを確保する予定です。

更に、放射光(SR)センターが明年四月から稼働予定で、建物工事が進められています。それに関連して、リン・リガビームラインが設置されると共に、半導体、金属の超微細加工が行える一連のプロセス設備が設置される予定です。

研究センターでの研究活動は受託研究や寄付研究などの研究プロジェクトによる研究費などの学外資金によって運営されるのを原則としています。



電子技術センター室



第一期研究センター棟
(ロボティクス・FAセンター棟)

理工学部、理工学研究科での研究組織とは異なり、産・官・学のネットワークのなかで研究課題、組織、様式、期間などの点できわめて柔軟に対応が可能です。立命電友会会員の皆様も是非積極的にご利用下さい。

終身会費御納入のお願い

本会は、大学・教室・校友皆様方の相互の交流・親睦をはかるべく尽力致しております。安定した運営を維持・確保すべく、未だ終身会費御納入頂いていない校友の方々に対しまして、その御納入をお願い申し上げます。終身会費納入の主旨御理解の上、是非とも左記要領にてお手続き下さいますようお願い申し上げます。

(終身会費)

壹万円

(会則第十五条に基づく)

(納入方法)

郵便局所定の振込用紙に卒業年、御芳名、御住所、電話番号ならびに「終身会費納入」の旨を明記の上、最寄りの郵便局よりお振り込み下さい。

(振込先)

〇一〇六〇一九一七五〇〇三

立命電友会

(御問合先)

滋賀県草津市野路町一九一六

立命館大学理工学部

電気電子工学科内

立命電友会事務局

(中西、津田川、高山)

電話〇七七五―六一―二六六二

FAX〇七七五―六一―二六六三

就職戦線本番を迎えて

理工学部就職委員長

辻村 寛

後輩の進路決定に

お力添えを

メ細かい進路指導に当たっているのが昨今の状況です。

大学卒の求人倍率は経済環境の悪化にもなつて急激な低下をたどり、ついに一・二倍を割ろうとしています。こういった環境の中、企業側の採用方針も「量」から「質」重視へと移行し、採用予定数にこだわらず採用基準を厳しく、資質の高い人材を厳選して採用しようとする姿勢が顕著に見られます。かつては十倍をこえた我が電気電子工学科への求人数も、昨年度は対学生数比で三倍程度、しかも「学校推薦」の「神通力」も急激に弱まっているのが全般的傾向です。昨年度の実績では、学校推薦者に対する決定率が50%までに落ち込む厳しさを示しました。既に、来年三月卒業生を対象とした就職戦線は開幕し、学生達は東奔西走、本来自ら四年間の総仕上げとして卒業研究に打ち込んで欲しいところですが、個々の学生にとっては一生を左右する重大問題です。折角身につけた専門的力量を発揮すべき進路の決定ということで、大学の関係機関は言うに及ばず、教員も卒業研究の学生に対して、キ

メ細かい進路指導に当たっているのが昨今の状況です。

今年度、理工学部就職委員長の重責を担つてみて感じることは、全国各分野に広がる卒業生校友の有形無形のご援助のありがたさです。学生の企業訪問への仲介依頼でも企業別校友名簿を操ること、ほとんど便宜を図っていたたくことができたり、求人数にいても、割りりとストレートなお願ひができるのも校友なればこそです。

五月の連休明けには就職活動は本格化します。就職環境の厳しさに加えて、今年度は昨年度に比べ理工学部の求職学生数が三割も増加しています。校友の皆様のもとへは学生が直接企業訪問にお伺いしたり、進路に関する相談に乗っていただきたいとお願ひに上がるかと存じますが、その際には何卒よろしくご指導・ご援助の程、お願い申し上げます。

九四年度卒業生の進路

理工系の就職戦線は文系系に比べて二・三か月早い為、バブル崩壊後の厳しい経済環境の影響が、

はつきりと数字にあらわれたのは昨年度からでした。我が理工学部においても就職率こそ一〇〇パーセントを達成してはいますが、数年前の就職先とを比較すると内容においては厳しい情勢を如実に物語る数字が示されています。例えば、一九九〇年度と一九九四年度の比較では資本金十億円以上、従業員千人以上の企業に就職した比率が八〇%から五〇%に低下しています。数年前までは学校推薦された学生の八〇%以上は内定していたのが昨年度は五〇%を切る厳しさでした。表一に理工学部の学生の業種別進路の変化を比較した結果を示します。

表1 理工学部学生の業種別就職先の変化

	91年	92年	93年	94年
製造 (内・電気製造)	76.6 (34.2)	73.4 (26.2)	65.8 (15.3)	52.6 (8.3)
流通商事	2.1	3.7	6.1	8.9
サービス	14.1	15.4	17.5	27.2
公務員・教員	5.0	5.3	6.1	8.2
その他	2.2	2.2	4.5	3.1

(数字は%)

特に電気電子工科学学生にとつて、その主要な就職先業種は電気製造関係ですから、この分野でここ数年の不況の波が他の業種に比べて大きかった状況の影響が見られます。今年四月から大学院生二九名、学部卒業生四四名が社会へ巣立ち、七三名が大学院へ進学をしました。

社会のニーズを先取り

する理工学部の改革

理工学部では、昨年度の「びわこ・くさつキャンパス」への移転を契機にして、既設学科の改編を含む新学科の新設、学部卒の50%進学を目標とする大学院の抜本的改組拡充を主要な柱として、国際化・情報化・開放化の課題に取り組んで来ました。UBCを初とする国外諸大学との学術協定・交換留学制度、私学で一、二を争う学術情報検索を含む総合学情システムの構築、産官学協同研究の積極的展開を目指した研究センター群の設立等が着実な歩みを始めています。特に、研究センターを中心とした各企業との研究交流は、本学卒業生の参画を含めた形で推進が多く見られ、社会的ネットワークの拡大に大きく寄与してもらっています。大学院生の研究とも密接に関わらせた展開を図ることに

より、大学の研究教育の質的向上に直接資する面が多いと期待しています。学科の刷新に関しては、電気電子工学科でも、二十一世紀にかけて急速に発展が見込まれる光関連の分野を取り入れた光工学科の九六年度新設を目指した取り組みがされています。教員スタッフの充実とカリキュラム内容の現代化が一層進むことになります。

次代を支える

人材育成の要請

産業の空洞化、学生の理工学離れが憂慮される中で、どんな人材を養成すべきかは大学に科せられた重要な課題です。立命館大学では、先月「二十一世紀の社会と科学技術」―大学が育む人材は―と題して学外の産・学から著名なパネリストを招きシンポジウムを開催しました。前東京工業大学学長・末松安晴氏は大学教育にあつては、効率的な教育システムを活かしながら、学術の知識伝授に加えて「自ら頭を働かせる」人材の養成が求められる。その場合、先見性・独創性をもち、生涯にわたる自己学習の意欲を育み、新しい時代に即した倫理観のもと樂觀的に未来志向を貫ける人材を育成して欲しいとの意見を述べられた。住友電工副会長・中原恒雄氏は

「新しい技術パラダイムが人材育成の大きなインパクトになる」そのためには大学はもっと積極的に産学協同を推進すべきである。また、松下電器産業の特別技術顧問・水野博之氏は、「知的財産を生み出すのは世の中と共に動いている大学」日本はかつて世界の知的財産を非常に安く手に入れて経済の発展を遂げることができた。日本自前の知的財産を生み出す人材の育成が求められている等々の共通した意見が述べられました。

新キャンパスではそのような要請に応えられる条件の整備は整っていると思います。教職員・学生一体となって恵まれた環境を活かした実践活動を展開いたしますので校友諸兄の一層のご支援を重ねてお願いいたします。

電気電子工学教室だより

電気電子系学系長 津田川 勝

平成六年度電気電子

工学科卒業生進学就職状況

平成七年三月に卒業した学生の進学就職状況は別表の通りとなりました。平成六年度の求人数は、昨年同様に全国的な不況の影響で厳しい状況でありました。必ずし

も希望の企業に採用されなかった卒業生もありました。社会や業界の情勢を的確に把握しつつ、個々に適した企業を選択するように就職指導致しました。その結果、就職者七十二名の就職先は六七社になりました。修士課程への進学者は七三名そして博士後期課程への進学者は一名でありました。本年度も数多くの先輩卒業生の方々から就職の御依頼を受けましたが、十分御期待に沿えませんでした。心から御詫びとともにお礼申し上げます。今年度もよろしくお願い致します。

教員の異動

次のような異動がありました。

(新任)

浮田 宏生

平成七年四月一日、NTT(株)より、電気電子工学科教授に着任。

篠田 博之

平成七年四月一日、京都大学大学院修了後、電気電子工学科専任講師に着任。



平成六年度電気電子工学科卒業生進学就職状況

項 目		学 部	修 士	就 職 先
卒 業 者 数		118	30	
進 学 者 数		73	1	
家 業		1		
就 職 者 数		43	29	
会 社 ・ 官 公 庁	電力・ガス		1	関西電力
	自動車・鉄道	2	1	本田技研工業、トヨタ自動車、名古屋鉄道
	電 気 関 連	24	15	日本電気、日本電産、ローム、村田製作所、松下電器産業、東芝、京セラ、三菱電機、ケンウッド、ホシデン、オプトレックス、東洋電波、竹芝精工、壬生電機製作所、GS-E E、オムロン、松下電工、日新電機、日立製作所、デジタル、明治ナショナル工業、K T I セミコンダクター、タイトーアレクセル、東京エレクトロン F e、セック、C R C 総研、電通国際システム、ステエンジニアリング、メイテック、日本プロセス、三菱電機エンジニアリング、カワタ、東芝エレベーターエンジニアリング、日本光電工業
	機械・鉄工関連	3	5	日本冶金工業、石川島播磨重工業、三菱重工業、村田機械、オリンパス光学工業、リコー、佐竹製作所
	通 信	4		N T T 北海道、北陸セルラー、関西テレメッセージ、関西日本電気通信システム
	建 設	6	1	住友電設、トーエネック、中電工、安井建築設計事務所、高砂熱学工業、関西三菱電機プラントサービス、日建設計
	ソフトウェア	2	1	メガチップス、日立西部ソフトウェア、ニッセイコンピュータ
	公 務 員		2	国家公務員、大阪府
そ の 他		2	3	ジャスコ、京都民主医療機関連合会、日清食品、大日本印刷、カリモクグループ

(順不同)

平成七年度の電気電子教室 の主要な委員

学系長

津田川 勝

副学系長 (前期)

岡田 正勝

(後期)

名西 愼之

就職委員

川畑 隆夫

(補佐)

荒木 義彦

研究委員

小松 康廣

学生委員

荒木 義彦

教務委員

高山 茂

企画委員

篠田 博之

理工学部就職委員長

辻村 寛

二部担当学部主事

荻屋 公明

光工学科設置準備委員長

岡田 正勝

95フォーラム実行委員長

溝尻 勲

卒業記念祝賀会開催

平成七年三月十九日(日)卒業式当日午後四時半より、平成六年度卒業記念祝賀会(電気電子工学科主催、立命電友会後援)を立命館大学びわこ・くさつキャンパス内ユニオンスクエア二階にて開催致しました。卒業生、修了生、教員ならびに立命電友会副会長を迎えて、約百五十名程の会合となりました。晴れて卒業・修了を迎えた学生諸君に対して、中島一郎電友会副会長より、御祝辞をいただきました。

同窓会だより

去る一月十五日(日)びわこ・くさつキャンパスにおいて、昭和三四年電気工学科卒の同窓会が開かれた。丁度、この日は同キャンパスにおいて、入試センター試験が実施されていたが、大学側の理解によって、無事午前の部を終えることができた。

34年卒同窓会

予定より少し遅れ開会。まず、五名の物故者へ黙とうを捧げ、冥福を祈る。次いで、浦山教授より、大学の現状と施設・設備の概要の説明を受ける。続いて、施設・設備の見学に移った。数日前の降雪が残る屋上から眺めるキャンパスの広さに驚嘆し、暫く湖南の風景に見とれ、カメラに収める者もいた。実

験室は暖冷房の完備した近代的建物、先進の情報機器やハイテク機器が完備されているのに感動した。現在の学生は勉学の環境に恵まれ、さぞかしよく勉強しているだろうと思っても見た。廊下にシュロ製のゴザを敷いた。我々が学んだ衣笠の木造学舎と隔世の感があり、

当時の頃が懐かしい。躍進する立命館大学と衣笠学舎の思い出が交錯し、午後の部においても話題の中心となり、話はつきなかった。午後からは場所を京都市内に移し、辻村教授も囲んで「田鶴」において第二部を開催した。

まず、立命電友会からのご報告があり、続いて出席全員



(三〇余名)の近況報告、あとは自由歓談、最後に、次回幹事を出し、校歌を歌ってフィナーレ。夕刻がせまり、再会を誓い散会した。その後は、二次会、三次会に参加し、日付が変わった人もあったとか……。

幹事(文責) 大橋謙太郎

院生の会

この度の阪神大震災におきまして被災に遭われました会員皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。現役院生の中でも実家家が三男(当時M1)ほどおりました。このこと電子メールで連絡の取れる会員にご通知致しましたところ、即日数名の有志より多額の義援金を頂きました。事務局ではこれらを取りまとめ、実家往復の交通費援助として当該の学生に手渡し致しました。処理の御報告を致しますとともに、有志の皆様方には心より御礼申し上げます。特に亀井氏(55年修了)塚本氏(63年修了)には、御尽力いただきました。本会は大変脆弱な財政基盤の上に運営されてありますが、このようなヒューマンコミュニケーションに基づく無形の財産を有しております。

すこと、大変誇りに感じる次第であります。今後とも、皆様方の御支援御協力賜りますことお願い申し上げます。

(幹事 森岡 泰雄)

事務局だより

本号の発行にあたり御寄稿頂きました皆様方には心より御礼申し上げます。

本会も設立三年を迎え、ようやく会員皆様のお心に落ち着きましたのか、連絡先等変更の御通知を電話やファクシミリで頻繁にいただくようになりました。本会自体では名簿管理を致しておりませんので、その都度大学校友課と(可能な範囲で)卒研・院生の会などにお知らせしております。会員名簿は会員相互の貴重な財産であります。その充実をはかるべく、今後とも皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

〒五二五-一七七

滋賀県草津市野路町一九一六

立命館大学理工学部電気電子工学科内

立命電友会

電話 〇七五-一六一-二六六二

FAX 〇七五-一六一-二六六三

(題字は久保之俊氏)